

【議事1】
事務局からの報告事項

1-1)市民議論及び市民理解の取組結果

◆市民会議の実施結果

ミニパブリックス形式により実施。前半は同世代で、後半は年代をミックスして、雪のある暮らしの将来イメージと大切にしたいことや、冬の生活道路のこれからなどについて議論し、最後に「雪のある札幌の理想の姿」についてキャッチコピーを考案

(日 時)

①令和8年8月1日(土) 10~17時

②令和8年8月8日(土) 10~17時

(会 場)

①赤れんが庁舎

②札幌市教育文化会館

(参加者)

市民94名(各回47名)

無作為抽出した市民6,000人に対し募集案内を送付し、応募があった440名の中から、年齢・性別・居住区等のバランスを考慮したうえで抽選により決定

参加募集のチラシ

このご案内は、札幌市内に住民登録がある方の中から6,000名を無作為抽出し、お送りしています。

ゆきのこと、みんなで、もっとはなそう。

年間5mmもの雪が
ふる札幌での暮らし

だから、あなたの
「雪」が必要なんです

生活に関わる「雪対策」が今、
話題になっています

参加者謝礼
10,000円

札幌の冬の暮らしをみんなで考える
市民会議(ミニ・パブリックス) 参加者募集!

テーマ 持続可能な雪対策のあるべき姿

	日 時	会 場
第1回	令和8年8月1日(土) 10時~17時	赤レンガ庁舎「ホールA」(中央区北3西6)
第2回	令和8年8月8日(土) 10時~17時	教育文化会館「研修室403」(中央区北1西11)

※どちらか1回の参加となります

【参加者募集要項】

定 員：各回50人程度
(応募者多数の場合は抽選)

参加費：無料

申込締切：令和8年7月3日(金)必着

郵便でのお申込み

同封の「参加申込書」にご記入の上、
返信用封筒にて投函してください。

インターネットでのお申込み

URLかQRコードから
アクセス!

お問合せ先

札幌市 まちづくり局 政策企画部 未来創生担当課
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎5階南側
TEL:011-211-2338 E-mail:miraisousei@city.sapporo.jp



1-1)市民議論及び市民理解の取組結果

◆市民会議の実施結果

共感投票で上位を獲得した「雪のある札幌の理想の姿」についてのキャッチコピーと役割分担

雪のある札幌の理想のすがた

好きです！スノー都市・札幌

実現に向けた役割分担	行政	小型除雪機購入補助、企業へのボランティア呼びかけ、資金援助・市民向け情報発信強化
	市民	町内会を中心とした要配慮エリア特定、ボランティア主体による除雪マップ作成・地域共有
	企業	除雪配慮の就業時間調整、従業員のボランティア参加推奨、デジタルマップ開発等での技術協力

雪のある札幌の理想のすがた

SNOW POWER SAPPORO ～雪を観光・エネルギーに変えよう！！～

実現に向けた役割分担	行政	雪活用に取り組む事業者の公表・PR、企業と連携したまちづくり施策への参画促進
	市民	さっぽろ雪まつり等で訪れる観光客へのおもてなし推進
	企業	雪をエネルギーに変換・活用するアイデアの創出、雪貯蔵技術等を活用した連携事業の推進

雪のある札幌の理想のすがた

札幌市は雪でガッチリ

実現に向けた役割分担	行政	財源確保・補助金制度整備、雪かきポイント制度等インセンティブ設計、制度づくりおよび関連企業誘致
	市民	雪対策への関心向上と互助・助け合い推進、行政制度への積極的参加および地元定着
	企業	地域基盤強化と雪活用による収益向上、札幌本社企業の増加に向けた取り組み、社宅整備や給与還元等

雪のある札幌の理想のすがた

企業版パートナーシップ

実現に向けた役割分担	行政	ルールおよび仕組みの構築、既存パートナーシップ制度と同様の補助・支援
	市民	テレワーク等による渋滞緩和貢献、地域情報提供、季節に応じた柔軟な働き方(夏の職種から冬の除雪担い手へ移行など)
	企業	複数企業連携の効率的除排雪、カンパニーバス運行、雪対策を通じた企業PR、テレワーク・ウィンタータイム導入

まとめ

行政: 制度やインフラの整備、資金援助、情報発信を通じて、市民や企業が動きやすい仕組みや環境をつくる
市民: 地域での見守りや助け合い、イベントへの参加を通じて、お互いに支え合いながら雪と前向きに付き合う
企業: 技術やシステムの提供、柔軟な働き方の導入や除排雪への協力により、地域社会を経済・技術面から支える

1-1)市民議論及び市民理解の取組結果

◆オープンハウスの実施結果

札幌市の雪対策の現状や課題、これまでの雪対策審議会での議論の方向性についてまとめたパネルを展示し、参加者には市の職員らによる説明を実施。雪のある札幌の理想の将来像についての投票ブースや、未来に向けて行政、市民、企業ができることを書く意見募集ブースも設置

(日 時)

- ①令和8年9月5日(土)・6日(日) 10~16時
- ②令和8年9月12日(土)・13日(日) 10~16時

(会 場)

- ①駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)
- ②イオンモール札幌平岡

(参加者)

約900名

- ① 各日約300人
- ② 各日約150人

作成したパネル(一部)



チ・カ・ホでの投票結果



意見募集(イオン2日目)



1-1)市民議論及び市民理解の取組結果

◆オープンハウスの実施結果

市・行政への意見

- **除排雪体制の強化と予算増額：** 予算や人員の確保、除雪事業者の待遇改善・支援、適切な除排雪頻度の維持
- **生活道路・歩道の安全確保：** 生活道路や通学路、歩道の早急な除排雪、交差点の雪山対策、点字ブロックの確保など
- **個人・高齢者世帯への費用・作業支援：** 除雪を行う町内会や個人・高齢者世帯への助成金交付や負担軽減措置の導入
- **情報提供とデータ・インフラの活用：** 除排雪スケジュールの見える化、ドローン活用、融雪施設・雪捨て場(流雪溝等)の拡充
- **交通ネットワークの整備・雪の利活用：** 地下鉄の延伸構想や、雪を活用した子ども向けイベント、利活用促進への期待

市民・住民の取り組みと意識

- **助け合いと共助の精神：** ご近所同士の声掛け、地域住民での協力、助け合いによる除雪作業の推進
- **自助・マナーの徹底：** 自宅周辺の除雪は自分で行うことや、排雪の妨げとなる路上駐車防止、雪捨てルールの遵守
- **ボランティアや若者・学生の協力：** 有償ボランティア、学生や若い世代のパワーを活かした除雪協力体制の導入
- **地域コミュニティ(町内会等)の活用：** 町内会を基盤とした除雪活動や、ルール・集積場所の整理
- **冬を楽しむ工夫と行動抑制：** 大雪時の不要不急の外出控え、かまくらづくり・雪まつり・スキーなど雪を楽しむ意識づくり

企業・事業者の役割と提案

- **責任範囲の徹底管理：** 店舗・事業者・マンション管理会社による敷地周辺や責任エリアの除雪
- **柔軟な働き方の導入：** 大雪時のテレワーク推進、オンライン授業、通勤時間の分散(早出・余裕をもった移動)
- **雪エネルギー・最新技術の活用・PR：** データセンターの雪冷房、フィジカル AIや自動除雪技術の開発、雪エネルギー研究のPR
- **地域プロモーションや資金調達・イベント連携：** ゲーム・インフルエンサー活用、地域限定イベント、企業版ふるさと納税の活用
- **福祉・地域協力への参画：** 福祉除雪への事業者協力や作業所・有志による除雪支援体制の構築

1-2)生活道路除排雪に関する町内会アンケートの結果

◆調査方法

目 的：町内会・自治会の生活道路除排雪の現状や課題を把握し、今後の在り方検討に活用する

時 期：2026年6月26日（金）～8月31日（月）

対象者：全区の町内会長、自治会長 計2,157名

回答数：986件（回答率：約46％）

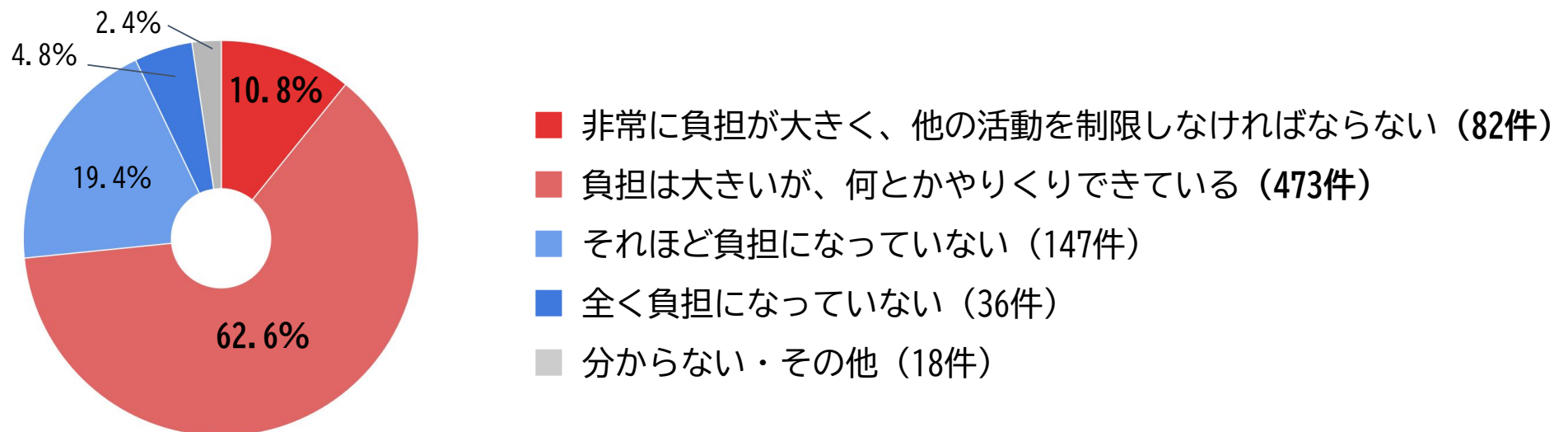
設問数：パートナーシップ排雪制度等の利用状況（3問）

昨冬の緊急排雪の実施状況（5問）

生活道路除排雪の在り方検討で重要と考えるもの（3問）

◆主な回答結果

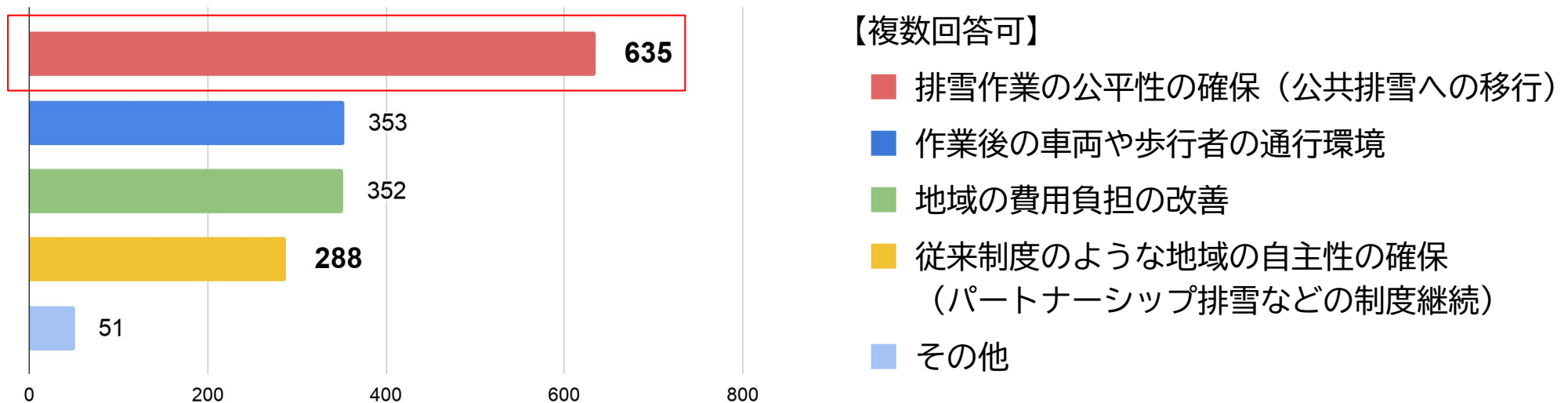
問2 排雪支援制度の利用にかかる費用負担感（N=756）



1-2)生活道路除排雪に関する町内会アンケートの結果

◆主な回答結果

問9 生活道路除排雪の在り方検討において重要と考えるもの (N=931)



- ・生活道路除排雪の検討において、「公平性の確保（公共排雪への移行）」を重視する回答が最多の約7割
- ・「作業後の通行環境」や「費用負担の改善」は約4割
- ・「地域の自主性の確保（パートナーシップ排雪制度などの制度継続）」は約3割に留まった

町内会（地域）の課題として挙がっていた、「費用負担や不公平感の解消」を求めるニーズが回答に反映される結果

1-3)生活道路除排雪に関する今冬の試験施工

◆生活道路除排雪の試験施工

目 的：作業可能な全ての生活道路を対象に市主体で作業する効率的な除排雪手法の確認

実施場所：10区において調整中（今月中に決定予定）

作業内容：1）パートナーシップ排雪と比較し、運び出す雪の量を抑制

2）地域との事前の日程調整は行わずに排雪作業を実施

	R 7 緊急排雪	R 8 試験施工
作業水準	設けない	一定の作業水準を設ける (道路の幅・路面の雪の厚さ)
全線対応 (PS未利用も含む)	突発的に事後対応	事前に計画・準備

【作業前後のイメージ】 イメージ画像のため実際の状況とは異なる場合があります



①シーズン前



②排雪前



③排雪後

1-3)生活道路除排雪に関する今冬の試験施工

◆生活道路除排雪の試験施工

主な確認事項

【札幌市・除雪事業者】

- ・ パートナーシップ排雪未利用の地域も含めて、効率的に作業できたか、排雪費用はいくらかかったか
- ・ 運び出す雪の量を抑制しても、一定程度の通行環境を確保できたか

【町内会（地域）】

- ・ 車両の通行や歩行に大きな支障はなかったか
- ・ 費用負担を無くすことで、地域の不公平感の解消につながったか

⇒ 3月頃アンケート調査等により、作業の「効果」や「影響」を確認



今後のスケジュール（案）

令和8年度中

- ・ 審議会の答申を踏まえて排雪支援制度や今後の生活道路除排雪のあり方を含む「基本方針」を策定

令和9年度以降

- ・ 基本方針や今冬の試験施工の結果を踏まえて、具体的な生活道路の除排雪手法を決定

1-4)作業の効率化・省力化に向けた取組予定

◆先進技術の活用

(目 的)

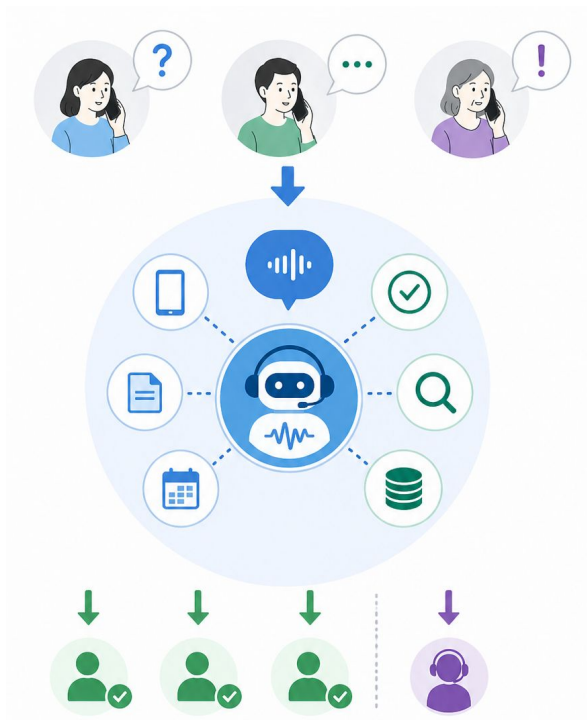
- 労働環境の改善

(実施概要)

- 除雪センターに自動音声受付及びAIによる内容聞き取りを行う自動応答システムを試験導入

(今後の進め方)

- 対象範囲の拡大に向け調整中



◆雪堆積場の効率的な運用

(目 的)

- 公共排雪の効率化

(実施概要)

- 一部の一般受入雪堆積場について、公共排雪の受け入れを優先することで、排雪作業の効率化を図る

(今後の進め方)

- 一部の雪堆積場において段階的に実施



1-4)作業の効率化・省力化に向けた取組予定

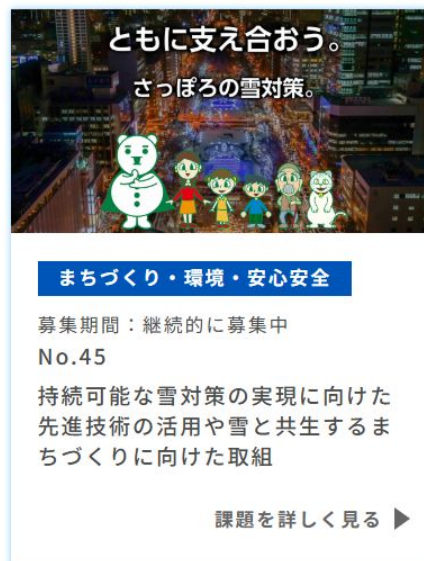
◆民間企業のアイデアの取り入れ

目的:除排雪作業の効率化や雪対策イノベーションに向けた中長期的な検討

実施概要:「SAPPORO CO-CREATION GATE」における提案募集など



官民連携による新たな価値や持続可能な世界都市・さっぽろを目指して
民間事業者の提案を募集する取組



◆提案事例

「自動除雪ロボの実証実験」
(株DFA Robotics)



市役所本庁舎屋上での実証 (R7)

さらなる民間事業者からの提案を受けるため、幅広い分野の企業に対して、
札幌市の特徴や雪対策に関する課題などを知ってもらう機会を検討中

1-5)気象に合わせた行動に関する取組

◆企業アンケートの結果

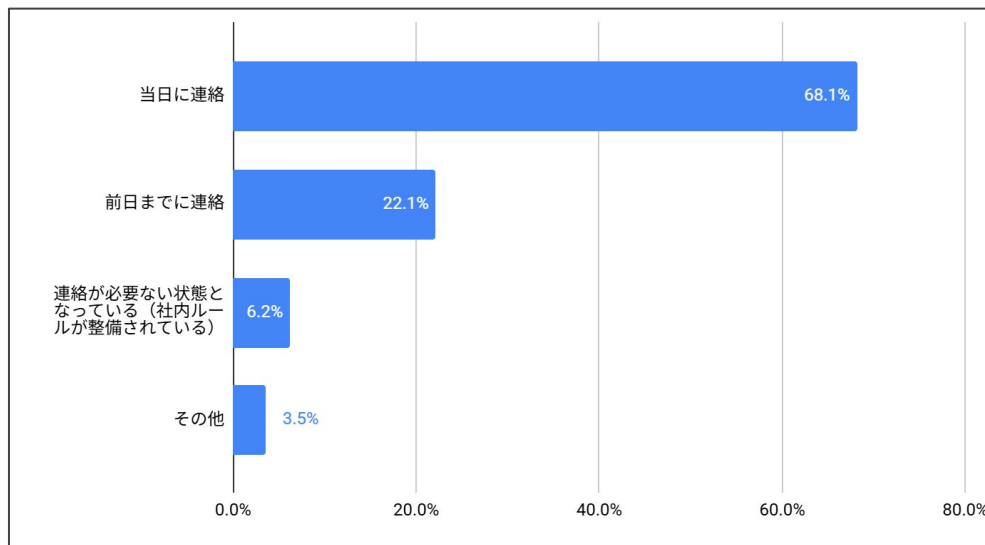
目的:気象に応じた柔軟な働き方の浸透に向けた企業の状況や課題把握のため、札幌商工会議所との連携によるwebアンケートを実施

時期:2026年9月3日(木)~18日(金)

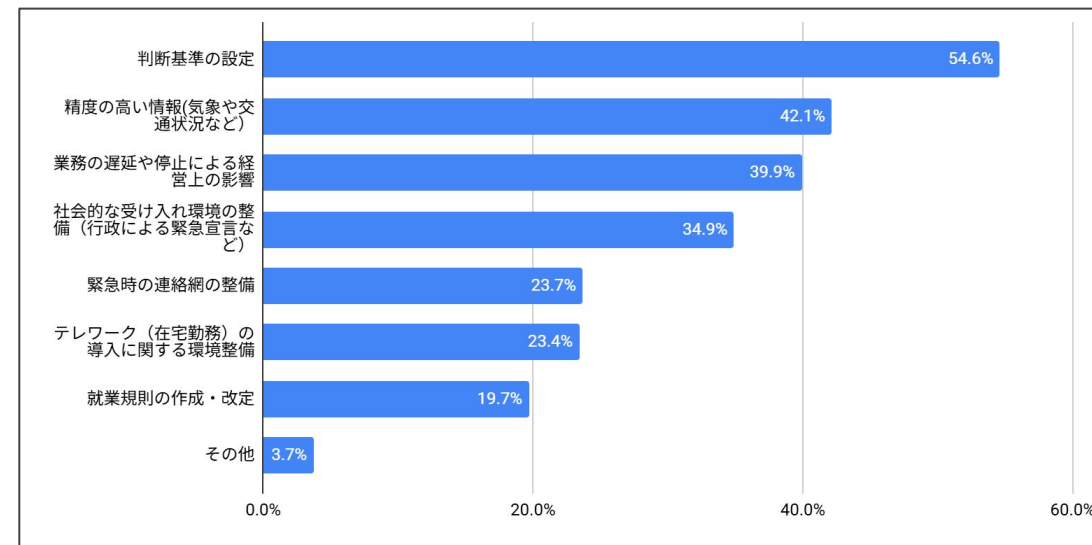
回答数:401件

設問:昨冬(R8.1)の大雪時に行った対応、出勤抑制を図った具体的な対応、連絡のタイミング、今後の大雪対応についての考え、業界全体で出勤抑制を拡大していく場合の課題 など

「昨冬(R8.1)の大雪時に出勤抑制等を図った際の社員・職員への連絡はいつ行ったか」 n=113
「出勤抑制等を拡大していく場合の課題は」 n=401



⇒出勤抑制を行った会社の連絡は7割近くが当日



⇒出勤抑制拡大の判断基準の設置、気象や交通状況などの精度の高い情報

1-5)気象に合わせた行動に関する取組

◆大雪対応訓練

日 時:令和8年11月18日(水曜日)9時30分～11時45分

訓 練:「札幌市地域防災計画－雪害対策編－」に基づく、

「札幌市緊急除排雪実施本部(本部長:副市長)」訓練

内 容:①気象情報などの収集・共有

②関係局区・関係機関との連携・調整

③除排雪作業に向けた体制構築・対策

④大雪情報の市民への発信、企業への働きかけ

⑤緊急除排雪実施本部の設置・開催

本部訓練 (イメージ)



<今回の訓練の目的>

- 除排雪作業を含む大雪時の対応行動タイムライン（大雪タイムライン）の確立
- 「情報発信のタイミングの遅れ」や「部署間の連携の抜け・漏れ」といった課題の発見
- 市民や企業への注意喚起の早期化、メッセージ発信のフローの確立
- 訓練状況を広く市民へ発信し、行動変容に向けた意識醸成に繋げる

1-6)札幌市議会における主な議論について

令和8年9月24日に開催された「総務委員会」における主な質問及び答弁内容。

①生活道路除排雪の見直しについて

質問：パートナーシップ排雪の廃止と公共排雪への移行にあたっては、地域のつながり維持や負担のあり方、市民ごとの理解の差など課題が多い。拙速な対応を避け地域と合意形成を図る必要があるが、切替にあたりどのような課題があると認識しているか伺う。

回答：住民の理解や制度廃止後の町内会の関わり方について検討が必要との意見があったところ。課題や試験施工内容を丁寧にご理解いただくとともに、地域の声や審議会の議論を踏まえ、行政と地域の新たなパートナーシップのあり方を検討する。

②持続可能な除排雪体制の構築について

質問：担い手不足の中で全地域を公共排雪に切り替える場合、作業量が増加し持続可能な体制確保に逆行する懸念がある。除雪従事者の確保が困難化する中、生活道路を公共排雪へ移行するにあたり、どのように持続可能な体制を構築していく考えか伺う。

回答：試験施工で効率的な作業ルートや幅員確保による排雪量抑制等を検討する。またデジタル化など雪対策全体の効率化も推進し、審議会の議論を踏まえて持続可能な除排雪体制の方向性を整理していく。

③対応できる作業と市民意識との乖離について

質問：現実的な作業能力に対し市民の要望は高く、意識との間に乖離が見られる。持続可能な雪対策の実現に向け、行政・事業者が実際に対応可能な作業水準と市民意識をすり合わせるため、今後どのような広報や対応を行っていく考えか伺う。

回答：広報紙等で課題を周知してきたが、試験施工等の具体的な道路環境の変化がイメージしにくいとの指摘も受けている。今後は映像等も活用した分かりやすい情報発信を行い、市民理解を高めていく。

④気象に合わせた市民の行動変容に向けた取組について

質問：大雪警報時等の迅速な作業や緊急車両通行確保のため不要不急の外出を控えることが重要だが、冬の気象は危険性がイメージされにくい。大雪時の外出自粛など、気象に合わせた市民の行動変容に向けて今後どのような取組を行う必要があるか伺う。

回答：大雪時の行動変容には判断に必要な情報発信や柔軟な働き方の環境整備が必要である。今年度は大雪を想定した訓練や情報発信強化を行い、これらを周知することで市民の行動変容につなげていきたい。